

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 岡山大学

学部・研究科等名 保健学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目名：Ⅱ 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：教育課程の編成

取組1：高度専門職養成のために平成20年度から医学物理士コースおよび特別履修コース、平成21年度からCNSがん看護専門看護師コースを開設した。

その成果：中国・四国広域がんプログラム医学物理コースは、文部科学省の支援を受けて、岡山大学保健学研究科、高知大学、徳島大学が協同して平成20年度に開設された。授業はe-learningを活用して行われている。本研究科から5名(平成20年度)、2名(平成21年度)がコースに参加した。平成21年度には4名のコース修了者があり、内2名が医学物理士の資格を取得した。(資料1)

平成21年度末現在CNSがん看護コースには課程認定者(平成21年度)4名を加えて6名が在籍している。平成21年度に2名のコース修了者を出した。

資料1：医学物理士コース等の概要

3大学が医学物理士コースとしてワーキンググループを構成し、教育プログラムは医学物理士および放射線治療管理士、放射線治療専門放射線技師などの主に放射線治療に関わる医師以外の専門職を対象とした教育プログラムを提供している。岡山大学では保健学研究科の修士課程に「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」として開設され、インテンシブコースを含むプログラムが行われている。

(出典：医学物理士コース外部評価資料)

取組2：平成21年度、文部科学省、大学の支援を得て、保健学研究科が中心に岡山大学病院、岡山県不妊専門相談センター、岡山県健康対策課・子育て支援課の協力のもとに、助産師のリカレント教育事業を開始した。授業にはe-learningによる受講、復習も取り入れ、超音波シミュレーション装置を用いた実技、死産児のケアの演習、児童虐待予防プログラムのファシリテーター体験などを行った。修了要件には各テーマごとの筆記テスト、超音波検査技術試験、研究レポートの作成と発表会、指定施設での研修やボランティア活動を課した。

その成果：一般募集者は、助産師免許、または、看護師免許を持つ者で20名程度、本学学生10名程度の定員で開始した。一般募集者は平成21年度は岡山県内が4名、県外が18名であった。平成21年度から修了者には学長から修了証書を授与することになった。(資料2)

資料2：助産婦リカレント教育事業の概要

本学研究科は助産師の就労支援、離職防止を目的とした「助産師再生のための専門教育プログラム」を提案し、平成19年度から助産師・看護師免許を有する社会人等を対象とした社会人キャリア教育を実施してきた。平成20年度には中四国、近畿、九州からの受講生は延べ約100名に達した。平成21年度は本格的に1年間のカリキュラムを作成して全国に受講生を募集した。カリキュラムは周産期医療、生殖医療、地域母子保健の3つの柱のもとに多施設に講師を依頼して行われた。

(出典：岡山医学会雑誌121:177-181,2009)